



第3回

# 【銀山街道 美女峠】

福島県

## 峠に美女は現れたか



美女峠から見た会津の山々

### 諸国巡見使の随行者が 見た美女峠



「寒中雪深くゆえ諸品生じ難く、緒にする唐むしと  
いう麻にはほぼたるものを作る」

「美女帰りの峠という上下三里の坂道あり、この山の  
木は楓ばかりにて、人々驚かせ」

これは天明8年（1788）5月、この地方を旅  
した古川古松軒が『東遊雑記』に記したものである。

享保11年（1726）、備中国（今の岡山県）に生  
まれた古松軒は、長崎に遊学して地理学、測量学を  
学び、幕府の巡見使に随行して各地を歴遊した。そ  
の生涯は、測量や地図の作成をしながらの旅に明け  
暮れた。



生涯には謎の部分も多い古川古松軒

「巡見使という幕府の視察者に随行したためか、古  
松軒が残した記録は幕府寄りに偏っていて、バラ  
ンに欠けている」と、舌言を呈するのは三島町の郷土  
史研究家の角田伊一さん。角田さんは、古松軒たち  
が美女峠越えをしたときに案内をした人物の子孫に  
あたり、家には『手鑑』というその際作成した案内  
手引書が残っている。

### 峠が続く銀山街道

美女峠がある銀山街道は、会津若松と小林（只見町）  
とを結んだ江戸時代の街道で、およそ18里（約72キロ）  
の行程だった。途中には銀山峠、石神峠、吉尾峠な  
どがある山中の難路だったが、軽井沢銀山の銀を運  
ぶ役割を持ち、会津藩にとっては重要な道だった。

美女峠は俎倉山西方の海拔862メートルの峠で、  
大沼郡三島町と昭和村の境となっている。古くは「美  
女鬼」や「美女帰」と表され、「びんじょぎ」とも呼



先祖のことを思いながら「手鑑」を手にする  
角田さん



道端にたたずむ山神碑

### ロマンを呼ぶ街道名

美女峠の名前にひかれ、峠を訪れる人たちがいる。  
また地元の三島町と昭和村では峠を歩くイベント「美  
女峠ウォーキング」を毎年開催し、地元の歴史を伝  
えている。峠歩きを始めたのは前出の角田さんたち  
だが、今では両町村の恒例イベントになっている。

いつの日か自動車道路になる夢を含め、美女峠と  
いう名はロマンを掻き立ててくれる。新緑のころに  
訪れてみてはどうだろうか。



峠には「高姫清水」があり、旅人の喉を潤してくれた



峠を昭和村方面に下ると「馬頭観音碑」が残っている

### 街道コラム

平成24年の峠歩きは10月28日に開催した。  
主催は美女峠改良期成同盟会。県道指定さ  
れたものの、車が走れない道を何とかした  
という地元の思いが込められている。三  
島町から昭和町まで歩き、参加者にはけん  
ちゃんそばと天ぷらがふるまわれた。



平成24年の峠歩き。美女峠頂上で記念撮影



街道周辺の道の駅は、  
道の駅・ばんだい（磐梯町）、  
道の駅・会津柳津（柳津町）、  
道の駅・尾瀬街道みしま宿（三島町）  
道の駅・にしあいづ（西会津町）